

デザイン学部

デザイン学科教授 扇 千花

1. 研究活動

a 演奏会・展覧会・競技会等の名称著書・論文・作品等の名称（項目ごとに記入する）	b 発表または発行の年月日	c 演奏会・展覧会の会場・主催等または論文等の発行所・発表雑誌等の名称	d 発表・展示・作品等の内容等論文概要等（共著の場合のみ編者・著者名を記入）
The 5th Riga International Textile and Fibre Art triennial Tradition and Innovation	2015. 4	The Latvian National Museum of Art/	入選 作品 “Gently moving”
産学協同布製品開発プロジェクト・有松絞り	2015. 6	有松絞り産地	企画・運営 学生が産地で板締め絞りの技法を学び、手ぬぐいの柄を新たにデザイン、産地で制作、販売する産学連携プロジェクト
夏休みこどもの美術館2015「ボクいろ、わたしいろ、どんな色？」 ・caféの色を楽しもう ・色の重なりを楽しもう	2015. 8	名古屋市美術館	ワークショップの企画運営
産学協同布製品開発プロジェクト・名古屋帽子	2015. 9	「尾張名古屋の職人展」オアシス21、名古屋帽子協同組合ブース	学生がデザインした帽子を「尾張名古屋の職人展」の「帽子ファッションショー」に出品する産学連携プロジェクトの企画運営を行う。
テキスタイルアート・ミニアチュール展4 —百花百遊—	2015. 9	Gallery5610、東京	招待出品 作品「つかの間の花びら」
	2015. 11	金沢21世紀美術館 市民ギャラリー、石川	
kawaii: crafting the Japanese culture of cute	2015. 10	James Hockey and Foyer Galleries, UK	招待出品 作品 “tiny petals”
	2016. 1	Rugby Museum, UK	
英国滞在記 テキスタイル産業編	2016. 1	染織と生活社 染織 a	寄稿
特別客員教授 若林剛之氏の招聘	2015. 6	名古屋芸術大学西キャンパスB大講義室	企画・運営 若林剛之氏+まり木綿対談。有松絞りまつりで販売する手ぬぐいデザインチェック。浴衣に似合う帽子デザインチェック。
特別講義 宮浦晋哉	2015. 10	名古屋芸術大学西キャンパスB大講義室	運営

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

f 教育内容・方法の工夫および作成した教材・資料等		g その他教育活動上特筆すべき事項
授業科目名 デザイン実技 I F3-2/素材体験		
<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
1年生ファンデーションクラフト系課題として、この授業は位置づけられる。自分の身のまわりにある廃品を30種類以上収集し、その素材を使って造形物（立体・半立体・平面）を制作する。手を動かしながら、素材固有の触感、重さ、固さを感じ取りながら、素材同士を組み合わせる。自分のイメージにあわせて素材を組み合わせるのではなく、最初に素材を集めそれを組み合わせながらイメージをつくるという素材体験の重要な考え方を示した。どんな素材に興味をひかれるのかを自分で認識するために、素材収集を行ない、その客観化を促した。授業の最終日には、各学生がつくった3作品を全員で鑑賞し、素材体験の面白さに気付くことに焦点を合わせた授業にした。	学生が収集してきた素材と学生が制作した3作品を教材とする	
授業科目名 デザイン基礎演習A（触感）		
<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
重要であるが、意識しにくい要素である「触感」に焦点を当てた。毎回テーマを設けてさまざまな手法を使い、意識的にさまざまな触覚に触れることから学生の意識を広げようとした。また、大学内の4つの工房で素材の加工を行い、実際に素材に触ることから、素材の特性の理解を促した。	工房での実習 染色工房（布と顔料によるハンドプリント） メタル工房（アルミ板による鍛金） クレイ工房（粘土の成形） ガラス工房（吹きガラス制作の見学）	
授業科目名 デザイン実技II（繊維素材）		
<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
テキスタイルデザインコース最初に受講する実技授業。通常テキスタイル分野の実技は、糸（織り）や布（染め）から始まり、また材料学は座学の場合がほとんどである。しかし、糸や布以前の状態である繊維素材の特質を学生が理解することがテキスタイル教育の根幹であるという考えから、コースの導入授業に「繊維素材」を学ぶカリキュラムにした。また、素材に実際に触れるだけにとどまらず、植物繊維によるペーパーメイキングや動物繊維によるフェルトメイキングの制作を通して、より深く素材の特質の理解を促した。	植物繊維 学生が栽培した綿の木。学生が採集した植物。ペーパーメイキングの材料、用具。 動物繊維 学生が刈り取った羊の毛。フェルトメイキングの材料、用具	

授業科目名 デザイン演習1 (プリント)	
<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p>プリントの技術の特徴と、テキスタイルデザイナーに必要なスキルである柄のリビートの付け方の理解を促した。</p> <p>また、染色分野で不可欠な知識である「染料と被染物の組み合わせ」の理解を促すために、色見本製作を行なった。</p> <p>柄をデザインし、図案～製版～布にプリントした。綿、ウール、ポリエステルなどの様々な布とそれに合った染料、顔料で試し染めを30点作成することにより、図案に合った配色、色料と被染物との関係の理解を促した。</p>	<p>さまざまな材質の布、染料、顔料、助材、糊材、箔、ラメなど。</p> <p>シルクスクリーンプリントの材料、用具。</p>
授業科目名 デザイン演習3 (産業テキスタイル)	
<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p>2年前期～3年前期までの基礎授業では、自分がデザインした布を自分で制作することにより、テキスタイルの素材や技術を学んできた。しかし、卒業後の職となるテキスタイルデザイナーは布のプロダクトデザイナーであり、工場で生産することが大きな違いである。この授業では、産業テキスタイルの第一人者や、専門家を特別講師として招聘し、講義聴講、テキスタイル工場の見学を行なう。実社会の現況を知ることから学生の視野を広げ、2年～3年テキスタイル基礎、4年での自由制作、そして卒業後の仕事とをつなぐ役割を持つ。</p>	<p>学生が産業テキスタイルの専門家の話を聞き、産業の現場に身を置くこと自体を教材とする。</p> <p>特別講義 「アパレルテキスタイル」テキスタイルキューブ主催 喜多正子先生 フェルト帽子工場 森安 帽子縫製工場 ワールドハット 有松鳴海絞り会館 板締め絞り工場 張正 絞り染色工場 久野染工 まり木綿ショップ マテリアルセンター</p>
授業科目名 デザイン実技Ⅲ (産学プロジェクト)	
<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p>地元のテキスタイル工場と連携してその地域に受け継がれた素材や技術に触れることから、生活を楽しく豊かに変えるための新しいテキスタイルの活用方法を構想し、アイデアを生み出すことをテーマとする。有松絞り産地でサンプルを染め、それをSOU・SOUディレクターの若林剛之先生が社会に受け入れられるデザインという視点で選定。成果物(手ぬぐい)は、有松絞りまつりで学生たち自身が販売、デザイン～生産～販売までを一貫して体験する。</p>	<p>学生が書いた指示書をもとに、現場で専門家とのやりとり自体を教材とする。</p>

授業科目名 デザイン実技Ⅳ（卒業制作）	
□前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p>染め、織り、テキスタイルデザインの中から、自分の研究テーマを選択し、卒業制作を行なう。学生の指向性を計り、独創性を伸ばすために、各学生とのディスカッションの時間を充分に取った。各学生のテーマに応じた素材や技術の提案を行ない、アイデアをかたちにするプロセスにじっくりとつきあった。</p>	<p>学生が選択したテーマにあわせた情報（書籍、展覧会、素材、技術など）</p>

3. 学会等および社会における主な活動

h 学会等の名称	i 活動期間	j 活動概要その他
帽子コンテスト イン ナゴヤ 2015	2015. 9	<p>審査員 全国帽子協同組合主催。 全国から応募のあったデザイン画の中から、最優秀賞、優秀賞、入賞と入選など120点を選出。</p>